横浜陶芸友の会だより

第186号
令和５年
８月１日発行

「役員会を終えて」

横浜陶芸友の会 会長　鍋島　弘義

総会で新役員が選出されて初めての「役員会」が先日行われました。

「作品展」の出展料に端を発し今まで先送りにしていた「友の会の今後の方向性」についての議論にまで至りました。

確かに先の見えない中で出展料の値上げも値下げもないわけで、繰越金、作品展、焼成会、会の備品など話し合わなくてはならない議題はたくさんあります。

高齢化に伴い会員数も今年度は23名になり、昨年度の「第43回作品展」の参加者も13名と激減しています。

「出展者が何名になった時「作品展」は閉じるのか？」との意見や「50回まで頑張る。」や「年齢よりモチベーションが大事。」「作品の質と量の問題で人様に見せられる作品が出せなければ終わり。」など、考え方はそれぞれ違っています。

何はともあれ、今年度の「作品展」は行います。この議論は、まだまだ続きます。

皆さん一緒に考えていきましょう。

今年度の「焼成会」も技能文化会館の大きな窯を借りず、専修部長の井上さんの窯を使うことになりました。今までのように釉薬を運ばなくてすみ、希望する釉薬が掛けられるので、皆様もぜひ参加してみましょう。

この会の特徴は色々な職種の方が色々な考えを持ちながらも陶芸と言う趣味を通じ作陶方法や釉薬、焼成方法など陶芸談義に花を咲かせて楽しんでいるのではないでしょうか。

「作陶するには年齢よりもモチベーションの方が大事で、やはり会に刺激が欲しい。」と、言う方がいました。その通りだなと。私は感じました。

今年、『関東学院大学の大学祭の時「友の会」から作品を展示してほしい。使用料は無料です。』という話が来ています。詳細は未定ですが役員会で「やりましょう」と言う意見にまとまり紹介してくださった佐々木先生にその旨伝えました。10月28・29日の二日間ですが多くの会員が参加されることを望みます。

日頃、会に対して感じていることを役員会に参加してみんなで話し合いましょう。

「役員会」報告

7月22日（土）15時より、会長、副会長、各役員7名の出席で話し合いました。

≪ 議題 ≫

一、各部からの報告

①総務部　（☆印は決定事項です）

○会議・活動等の年間予定が出されました

○会計より　**・決算方法について**

☆役員会の交通費はその都度総務から支払う。（部会は今まで通り）

☆各行事の会計は行事後の役員で報告・承認を得る。

☆活動費の締めは「2月の役員会」で行う。

☆「四月の役員会」で「決算・予算」の審議を行い「五月の総会」で承認後、活動費を支払う。

☆繰越金の扱いについても、この会の存続の話し合いの中で出ましたが、来年の「総会」で報告性を提示することになりました。

○広報より

☆会報の発行日は、印刷に出した日にする。

☆四月に「総会に諮る資料」を配布する。

お詫び

・第185号の「事業部より」の項で「出展料の変更」の内容で

今年度　一区画90㎝で5千円　に変更

と、書いてしまいましたが、正確には議論の内容の一部でした。

今回、再協議の上「事業部より」の項で出展料については報告されます。
混乱を招き大変申し訳ありませんでした。

○その他

☆会議日の連絡は会場が取れた時と二週間前の二回メール・ライン等で行う。
☆検討事項がある場合は前もって連絡する。

②事業部（詳細は事業部よりの欄を参照）
○「第44回作品展」の日程について
・日時・会場・その他
○出展料について（協議）
○その他

③専修部（詳細は専修部よりの欄を参照）
○「焼成会」について
・日時・会場・その他

二、その他
○「関東学院大学」関内キャンパスでの「大学祭」における「展示会」について
☆「友の会・有志」として参加する方向で決定しました。（詳細は後述）

三、次回の「役員会」予定

☆10月21日（土）　15時から
（場所）杉田地区センター

「秋期焼成会」のご案内

専修部

前回の「友の会だより」でご案内したように、左記日程で「秋期焼成会」を行います。

今回は会場が**技能文化会館ではありません**ので、ご注意ください。

記

○9月3日（日）AM 10時 受付
○9月10日（日）AM 10時 釉掛け

○**「作品引渡し」**については参加重量により受付時にご案内いたします。
○**「焼成費」は 1000円／1kg**
※受付時 **素焼き済み作品** を持参した方は希望により **当日釉掛け** も可能です。
※（その場合は **10日に来る必要** はありません。）

〈受付会場〉
会員限定。郵送された会報を参照のこと

会場までの地図

（広報より）
・受付時、作品は生でも素焼きした物でもいいそうです。（割れないように注意）
・井上宅が焼成会場なので、25種類以上の釉薬が体験でき、多少の無理にも対応してくれるそうです。

関東学院大学 関内キャンパスでの「陶芸作品展」について佐々木先生から概要の連絡がありました。次の内容です。

関東学院大学　関内キャンパスでの展示について概要をお知らせいたします。

【イベント名称】「関キャン fes.」
（関内キャンパス　フェスティバル）

≪ 開催趣旨（概略）≫
○「関東学院大学が社会連携教育」の拠点として開設(2023年４月）した
○関内キャンパスにおいて、社会・地域に開かれた大学として広く一般市民に向けて情報発信する一つの機会を提供するため開催する

【開催日時】 2023年10月28日(土)、29日(日)
10時～16時

【主な企画】
①K-biz アクティブチャレンジ最終報告会
（経済学部主催・横浜中華街発展会協力）
2Fホール　28日　10時～12時
②シンポジウム or 講演会(横浜信用金庫協力)
2Fホール　28日　13時30分～15時
③合唱・ミュージカル発表会
（赤い靴記念文化事業団主催）
2Fホール　29日　11時～14時
☆ 陶芸作品展（横浜陶芸友の会主催）
2Fギャラリー利用をお勧め
④その他　法科大学院研究科主催シンポジウム、大学公開講座発表会、同窓会支部会総会
⑤また、大通り公園では、物産展（長崎・沖縄・福島）、地元野菜販売、キッチンカーなどが　**出展予定**　です。

現在のところ、以上のような予定で企画準備中とのことです。

○佐々木先生からの概要で、関内キャンパスは「広く一般市民に向けて情報発信する一つの機会を提供する」ためのイベントだとわかりました。学生のメインは八景キャンパスで、関内では「ホール」での発表会のようです。
○見学者の対象は学生ではなくホールに集まる市民の皆様になりますね。
○「陶芸友の会」の展示も2階のホール前の広い廊下ギャラリーになりそうです。
○この会としては28(土)、29(日)日の両日の展示予定です。　**出展料は無料**
広く一般の方たちに知ってもらえるためにもできるだけ多くの会員の出展を望みます。

《連絡・受付窓口》鍋島　が行います

○第44回「作品展」開催日　決定

（期日）令和６年１月９日(火)～14日（日）（６日間）
（会場）「かなっくホール」３階Ａ室

（特設コーナー）**課題は「どんぶり」**です。
※今まで作った最高傑作でも、独創性に富んだ個性的な作品でも一品出しましょう。

（出展料）
・役員会では資料に基づき「出展料を値下げして繰越金を減らしていく」案や、「グループ展なんだから、作品の数に関係なく一律の値段でいいのではないか」とか「今まで通りのやり方でいいのでは」など、色々な意見が出されました。
・最終的に落ち着いた案が

今まで　一区画　30cm　二千円　を
一区画　45cm　二千円　にする

案です。
今まで三区画だった人も二区画で済みます。
実質値下げになります。

☆「作品展」の詳細については次回11月号発送時に同封いたします。

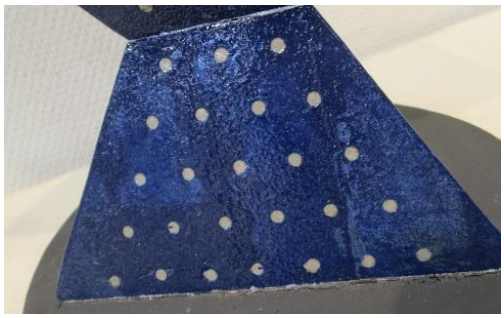
「第43回の作品」　鈴木貴久

「黄瀬戸杯」:　藁灰＆土灰（1:1）
たんぱん:硫酸銅
「三角の青い花器」:酸化コバルト化粧土３色
屋根:セレン赤　石灰透明釉
「四角取鉢」:青化粧土＆白化粧土　土灰透明釉
「六角積堆器」 第 57 回県展入選作
黒マット　白化粧　錆黒　土灰透明釉

今回のメインはこの「タンパン」です。
黄瀬戸は本来ぬるい温度で長時間焼くもので、黄瀬戸は良いが、どうもタンパンの色が黒ずんだり透明感が無かったりする。

いつも還元から酸化に変える温度を 1210 ℃にしているが 1228 ℃まで還元にして置いたら良いのが取れた。
今回長時間焼けない代わりにわざと 1228 ℃まで還元をかけて焼いてみた。
その結果飽和熱が還元の場合溜まりその熱量でグリーンの透き通った色が出た。
偶然の結果できたものだが、釉薬が少なくなったので小さいものしかできない。

「三角の青い花器」酸化コバルト化粧土３色の３色とは、コバルトと白化粧との量の割合（濃度）の違う３種類のことで、
①白化粧１ℓに対しコバルト 24 ｇ（濃い）
②白化粧１ℓに対しコバルト 12 ｇ　←
③白化粧１ℓに対しコバルト６ｇ（薄い）
まず、下地に①を筆で塗る。乾く前に布の切れ端に化粧土を染み込ませ、少ししごいて貼り付けパテで押し付けた後剥すと斑が出る。
固まった部分は布の境目になる。



丸い模様はシールでマスキングしたもの。
「四角取鉢」も同じ手法で、青化粧土を全体に塗り細い布に白化粧土を塗って剥したもの。
筆跡は残したくないしスプレーだと奇麗すぎて面白くない。
ムラを楽しむ手法です。

布を剥す方法はこれからも続けたいと思っています。

細い布跡と剥した後のムラがよく出ている

「六角積堆器」第57回 県展入選作
シャープな線を出すために長野の木工所で木型二種類（三角錐と六角形の枠）を作ってもらいました。

全体に錆黒（マンガンとコバルト）を塗り素焼きをする。ローラーで白化粧土を塗るが一回目は黒い所が残るが二回目は厚くなるので黒い所が無くなり模様ができる。
発泡スチロールで模型を作り、部分的に作ったパーツを間違えないようにした。
一つ間違えると各パーツの連続が全部くるってしまう。
これもローラーのムラが楽しい。

「第43回の作品」　本橋昭彦

井戸茶盌：古信楽土（荒目）　ラスター釉　電気窯
（ラスター釉は光沢がありとても綺麗ですね）

鮑皿：半磁器土　穴窯焼成　自然釉
（本物の大きな鮑を型にして作りました。
半磁器土を穴窯で焼いたら内側もこんなに綺麗な色、艶が出ました。）

国宝・水指「破れ袋」写し：黄瀬土　穴窯焼成　自然釉
（昨年出し損ねた作品です。本物は五島美術館かな？にある。 本物にはない蓋まで作ってしまいました。　今、黄瀬の土が無くなっちゃった。）

砧花入：古信楽赤土（荒目）
穴窯焼成　自然釉
（「砧」きぬたって何かな？て思っちゃったよ。）

枯れ竹花入：古信楽土（荒目）
穴窯焼成　自然釉

馬の目豆皿：信楽粘土　酸化青磁釉　電気窯

伊賀茶盌：　伊賀粘土
穴窯焼成　自然釉

楽茶盌：　楽粘土　引出黒
穴窯焼成　自然釉

「第43回の作品」　川島幸子

この「織部花入れ」のデザインは自然の植物をイメージして作りました。
葉の上の方は下地に白化粧をスプレーガンで掛けその上に織部釉を掛けました。

織部花入れ：　益子赤土　一部白化粧
スプレーガン　織部釉・鉄赤釉
皿・小鉢：　ネイビーブルー　飴釉

徳利：　白御影土
穴窯焼成　自然釉

大徳利：　古信楽赤土
穴窯焼成　自然釉

葉の縁がうっすらと白になり緑も鮮やかでとても綺麗な色にできました。

織部掛け分け中鉢：　益子赤土
織部釉・唐津飴釉薬掛け分け

・この「織部掛け分け」は重なった部分の面白さを狙ったのですが、織部釉が濃すぎたのか溜まり部分が黒くなってしまいました。

川島幸子さんの
前ページの続きです。

粉引鉢：　益子赤土
白化粧・呉須　土灰透明釉

粉引耳付きボウルの耳の青が青化粧です。
粉引鉢の花模様の青は呉須で色付けしました。
同じようですが違うのです。

（上）粉引小物　　（右下）唐津飴釉小物
（左下）粉引耳付きボウル：　益子赤土
白化粧・青化粧に土灰透明釉

【編集後記】

・何事にも「初めがあれば必ず終わりがある」のが世の常なのですが、この会も本気で考える時期が来ました。

しかし、そればかり考えていても面白くないし、元気のあるうちは楽しい事もやりたいですよね。

「楽しい事」と言っても、これ又、人により様々な思いがあります。その個々の思いを持ち寄り、ちょっとでも楽しい時を一緒に過ごしましょう。

・関東学院大学からのお話に参加することで新しい出会いが生まれるかもしれません。何かをやろうとすると、かなりのエネルギーを必要とします。だからと言って、何もしないよりは一歩踏み出しましょう。

鍋島弘義

陶陶さん

第 108 号

あかほし

ホームページもチェック!!
横浜陶芸友の会
検索
http://www20.atpages.jp/tomonokai/

横浜陶芸友の会だより
第 186 号
（令和 5 年 8 月 1 日発行）
発行人　横浜陶芸友の会